

# ダウンライトのマジック

～ こんなにも違って見える ～

●素材の演出  
壁に凹凸のある素材を採用した場合は色々試す必要がある。例えば陰影を出しメリハリをつけるデザインが好みの場合、狭角配光で配灯間隔はその素材の表情を見ながら検討します。

●壁からの距離  
壁からの距離が近ければ天井との入隅まで光が回り、離れると影が出来る。きれいに照射するには、壁から150ミリ間隔は300ピッチが程よい寸法です。

●ダウンライトの配光。  
狭角、中角、広角、拡散に分けられる。一般的には20度以下を狭角、20度から30度を中角、30度から50度を広角、それ以上を拡散。そんなイメージを持つと良い。壁を照らす場合、広角や拡散を選ぶのが無難です。

●ダウンライトの大きさ（開口寸法）  
住宅で一番多く使われている開口寸法はφ100、φ75やφ50の小径サイズを選んでも良い。同じスペックならコストパフォーマンスはφ100が一番良いです。

## 壁を照らす

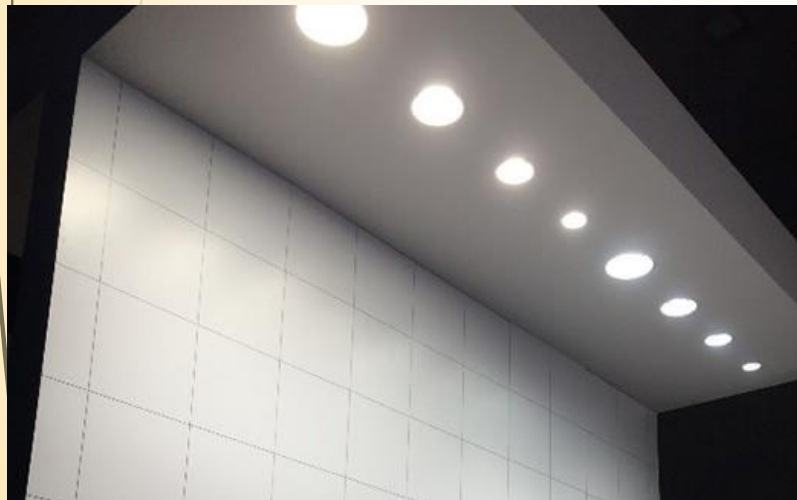
もはや、明るさを確保する道具ではなくなくなったダウンライト



## 灯りコラム Vol.33



漆喰のように塗り壁の場合はわずかな凹凸が陰影を作り壁面がダイナミックに演出することが可能にすることが出来る。その場合全体にまんべんなく照射するイメージを作るのがポイントです。



●絵を照らす  
写真奥のダウンライトは照明器具の存在を消すことの出来るグレアラレス。そして、絵にフォーカス出来るユニバーサル型のダウンライトを採用することで素材である絵を活かすことが可能になる。そして、明る過ぎない照度を確保できる光束を検討すると良いでしょう。

株式会社 灯り計画



照明計画を切り口に暮らしたい照明技術？  
提案の幅を広げ、照明の効果を演出する。照明の演出が必須アイテム。  
この場での演出が必須アイテム。  
この場での演出が必須アイテム。  
この場での演出が必須アイテム。  
この場での演出が必須アイテム。

info@design-akari.com  
Tel : 04-7196-7142